

# 序

地球上の生命は、誕生してから 40 億年近い歴史を有しています。この膨大な時のながれの中で、多種多様な生き物が出現しては、消えてゆきました。このすべての過程が生物の進化です。進化は、この歴史性を有する生命において重要な特徴です。生命を語るには、進化現象の理解が必須なのです。

日本における進化の研究は、明治時代初期にダーウィンらの進化学説を受け入れて以来、長い伝統があります。20 世紀の後半には、中立進化論という現代進化学の根幹をなしている理論体系の確立に、木村資生をはじめとした多くの日本人研究者が貢献しました。そうして、宮田隆ら数百名の発起人により、1999 年に日本進化学会が設立されました。現在本学会は、1300 名余の会員を擁しています。

2006 年には、3 年後の学会創立十周年を記念して出版物を発行することになりました。嶋田正和会長ら当時の執行部から斎藤成也が編集委員長に指名され、多様な研究分野を代表する 12 名の会員からなる編集委員会が発足しました。この出版物には、進化学の多様な成果を盛り込み、共立出版から刊行されることに決めました。企画から出版までに 6 年の歳月がかかりましたが、めでたくこの『進化学事典』の刊行にこぎつけることができました。多数の著者をはじめとする関係者の皆様に深くお礼いたします。

この事典は、大項目主義をとっています。長さによって大、中、小の三段階にわけ、297 項目を 171 名の著者が執筆しました。日本の進化学者を結集するため、一部の項目については、日本進化学会の会員以外の方にも執筆をお願いしました。全体は、第一部「進化史」、第二部「進化のしくみ」、第三部「進化学とそのひろがり」という三部構成です。第一部は生命の起源からはじまり日本列島の生物まで、生物進化によってもたらされた生命の多様性を示します。第二部は、遺伝子、タンパク質、ゲノムからはじまり、動物の行動、形態と発生、種、環境との相互作用まで、進化のしくみを広範なレベルで紹介します。第三部は、古生物学をはじめとする進化学と他分野との関係や進化解析の技法、進化学の歴史を取り扱っています。

日本には、生物学に関する事典はすでに存在しますが、進化学に関する事典の出版は、本事典がはじめてです。この『進化学事典』が、21 世紀を担う若い人々にとって進化学にとりくむ際のめあてとなれば幸いです。

2012 年 3 月

『進化学事典』編集委員会